

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月15日

【評価実施概要】

事業所番号	874200256		
法人名	社会福祉法人 石下福祉会		
事業所名	グループホームさくら館		
所在地	常総市馬場2245番地 (電話) 0297-43-8611		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	茨城県水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館2階		
訪問調査日	平成19年5月30日	評価確定日	平成19年11月20日

【情報提供票より】(平成19年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	
職員数	18人	常勤14人, 非常勤2人, 常勤換算14人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1・2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 6,900 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円		

(4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	18名	男性 2名	女性 16名
要介護1	2	要介護2	7
要介護3	6	要介護4	3
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 83.6歳	最低 67歳	最高 94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	八千代病院 湖南病院 野村歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「人の命は地球より重い」という理念のもと、職員は利用者一人ひとりの立場にたって、きめ細かで温かみのあるケアサービスを行っている。
 運営者は職員の資質向上を図ることが必要との認識に立ち、法人内外の研修の企画や情報提供を行うとともに、職員が参加できるよう、勤務の調整などを配慮している。
 広い敷地の中に特別養護老人ホーム、デイサービス、在宅介護支援センター、居宅介護支援事業所、ケアハウスなどの高齢者関係の事業を併設しており、事業所間で連携を図れる体制を整備している。
 地域で初めてのグループホームとして、職員と共に地域で根付くための努力を積極的に行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 運営者(管理者)と職員は、評価で得た課題や改善点について、お互いに意見を出し合い、できることから改善に取り組んでいる。 特に理念の周知を図る取り組みや利用者が安らぎを感じるような居室作りに取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者(管理者)と職員は評価の意義を理解した上で、外部評価の結果をホーム内で公開するとともに、評価で得た課題や改善点について、改善に取り組むなど、サービスの質の向上に努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議ではサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合い、会議で出た意見等を基にサービスの向上に向けた改善に取り組んでいる。 常総市の担当者は普段からホームに見学や相談に訪れており、意見や情報交換を行うなど、緊密な関係を築いている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情等に関する相談窓口や担当者を設置するとともに、契約書や重要事項説明書に第三者機関とともに明示し、利用者や家族に説明している。 また、面会や行事の時にさりげなく家族等の意見、不満、苦情を聞いている。 家族の面会時や電話、ホーム便りを活用し、利用者の暮らしぶりや健
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームで行う夏祭りに、地域の老人会等を招待したり、保育園の園児や父兄と交流している。 また、散歩の際に地元の人たちに挨拶などの声かけを行っており、地域に溶け込めるよう働きかけている。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を「人の命は地球より重い」と掲げ、利用者一人ひとりを価値ある人間として尊重し、最善の福祉サービスを提供できるよう、努力することとしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について、ミーティングやカンファレンス時に全職員に共通の理解を図るとともに、理念の実現に向け、日々利用者の最善の利益が提供できるよう、取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームで行う夏祭りに、地域の老人会等を招待したり、保育園の園児や父兄と交流している。 また、散歩の際に地元の人たちに挨拶などの声かけを行っており、地域に溶け込めるよう働きかけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員は評価の意義を理解したうえで、外部評価の結果をホーム内で公開するとともに、評価で得た課題について、改善に取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合い、会議で出た意見等を基にサービスの向上に向けた改善に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	常総市の担当者は普段からホームに見学や相談に訪れており、意見や情報交換を行うなど、緊密な関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や電話、ホーム便りを活用し、利用者の暮らしぶりや健康状態について定期的に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等に関する相談窓口や担当者を設置し、契約書や重要事項説明書に第三者機関を明示するとともに、利用者や家族に説明している。 また、面会や行事の時にさりげなく家族等の意見、不満、苦情を聞いている。	○	相談受付窓口や相談箱を設置しているが、ホームの運営に関するよりよい意見を聞く意味でアンケート等を実施することを提案する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による、確かな支援を継続的に受けられるよう、職員に学びの機会を設けるとともに、ユニット間で利用者や職員交流を行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成のために法人内外の研修の企画や情報提供を行うとともに、職員が参加できるよう、勤務の調整などを配慮している。 また、研修を受講した職員が、会議などで講習内容を報告し、情報を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は常総市などの集まりや研修会などで、職員とともに地域の同業者と交流している。 また、各活動を通して、良いところや参考になることは、ホームの運営に取り込んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者には、見学に来た時や自宅を訪問し、相談や利用等の面接、説明を行っている。 また、相談後の情報を基に事業所内で入居に向けた検討会議を行うなど、安心して入居できるよう、配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を介護するばかりでなく、利用者自身の楽しみを見出す、豊かな人生経験から学ぶなど、支えあう関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや暮らしの希望、意向は、包括的自立支援プログラムの作成や日ごろの様子などを記録するとともに、職員間で情報交換を行い、把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの状態を把握するとともに、家族などの意見・アイデアを具体的に反映した総合的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、変化が生じた場合は随時、本人・家族等と話し合い新たな介護計画を作成している。	○	書類等の作成において、書類作成の月日、記入者名・会議出席者名・閲覧者名などの記入漏れが散見するので、明記することを提案する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時の移送や付き添い、デイサービスでの交流など、本人や家族の状況、要望に応じたサービスの提供を行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向により、事業所の協力医のほかにも、馴染みのかかりつけ医の受診や通院介助を行っている。 また、併設する特別養護老人ホームの医師の診療も受けられる体制となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した場合や終末期に向けたホームの方針や対応方法を考慮しているが、対象となる利用者がなく、重度化や終末期にむけた対応や方針を取り決めるまでには至っていない。	○	利用者の高齢に伴う重度化や終末期に対する、ホームとしての方針や対応方法などについて、職員全員で検討する機会を設けることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応しないよう、心がけている。 また、「利用者の情報利用の使用目的」を明確にするとともに、個人情報が漏れないよう、十分な配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れは決めているが、利用者一人ひとりの体調や気分に応じて過ごすことができるよう、配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に応じて食事の準備や片付けを一緒に行っている。 また、職員は利用者とは話しながら、支援が必要な利用者の食事支援をしている。	○	利用者にとって食事をさらに楽しめるよう、外食や行事食などを取り入れる取り組みを期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯に関わらず、利用者一人ひとりの希望に応じて入浴できるよう、支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの力量に合わせ、食事づくりの手伝いや配膳、後片付け、散歩など、利用者が張り合いや喜びが得られるよう、役割づくりをしている。 地域の行事への参加なども利用者とは話しながら行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の体調、気分に配慮し、近隣への散歩を行っている。 また、盆踊りや祭り、買い物など利用者が行きたい所の希望を聞いて、希望に沿った支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の自由な暮らしを支えるため、利用者一人ひとりの外出傾向を観察、把握して対応している。 また、日中は玄関及び居室の窓、共用空間の窓は鍵をかけていない。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月一回の避難訓練をはじめ、災害対策を地元自治会や消防団、地域の人たちの協力で行っており、利用者も積極的に参加している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に栄養バランスのとれた食事を提供できるよう、併設する特別養護老人ホームの管理栄養士に協力を得ており、利用者の体調や咀嚼、嚥下の状態に応じた調理方法で、食事を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は窓が大きく明るい雰囲気であり、窓から田園風景が望める。 また、窓の陽射しはカーテンなどで調節し、光の強さに配慮している。 職員はゆっくり話しかけ、落ち着いた雰囲気を醸し出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビや箆笥、家族の写真などを持ち込み、安心して生活できるよう、配置している。		

※  は、重点項目。